

早稲田大学・ふくしま広野未来創造リサーチセンター
「農林水産業の再生と風評問題」(テーマ2)
ワークショップ(T2WS)

福島県における農業復興のあり方

主催: 早稲田大学・ふくしま広野未来創造リサーチセンター

Waseda-Bridgestone Initiative for Development of Global Environment

早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)

<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/>

共催: 早稲田大学環境総合研究センター・福島県広野町

1. 趣旨

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターは、2018年1月28日に第1回ふくしま学(楽)会、2018年8月4日第2回ふくしま学(楽)会を開催した。特に、福島復興における重要な課題を4つのテーマ(テーマ1: まちづくりと住民参加、テーマ2: 農林水産業の再生と風評問題、テーマ3: 再生可能エネルギーとスマートタウン、テーマ4: 1Fの事故処理と汚染水問題)を設定し、長期的で広域的観点から議論を行ってきた。

ふくしま学(楽)会開催を通じて、テーマ1とテーマ2に関連しては、「誰のための、何のための復興なのか」、「復興ビジョンの見直しの必要性」、「復興を自分ごとにしていくこと」、「双葉郡全体や浜通り全体のまちづくりを考えることの重要性」が論点として明確になった。また、テーマ2からは、「地域による所有、地域による意思決定、地域への利益還元というコミュニティ・パワーの3原則」が強調され、テーマ4では、「大事なことを誰が決めるのか」、「討論のフレームの設定やオプションの重要性」といった論点が浮かびあがってきた。

福島復興は「出来るだけ早く元に戻る」という従来の自然災害復旧アプローチではない、新たな環境条件の中での地域社会の再生という未知の困難な課題に挑戦しており、専門知と地域知との協働による新たな知識創造が必要とされている。本ふくしま学(楽)会の独自性・特異性を活かすため、今後も4つのテーマを維持しながら、テーマの連携・絞り込みを図っていく。次回の第3回ふくしま学(楽)会では、できる限り具体的な提案を提示することを目標としている。

以上の状況を踏まえ、今回は、「テーマ2: 農林水産業の再生と風評問題」と関連して、専門家や農家などの方を招いて、今後の福島県における農業の復興のあり方について考える。

なお、本ワークショップは、平成30年度 大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業「早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター事業」(研究代表者: 早稲田大学教授・松岡俊二、平成30年7月～平成31年1月)に基づくものである。

2. 日時・会場

日時: 2018年11月16日(金) 11:30～14:00(昼食込み)

会場: 福島県広野町公民館

3. プログラム

司会：磯辺吉彦（早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター招聘研究員）

【開会】

11:30-11:35 開会挨拶：松岡俊二（早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

【報告】

11:35-11:40 趣旨説明：大手信人（京都大学大学院情報学研究科教授）

11:40-12:00 高津敏治（福島相双復興推進機構 営農再開グループ 調整課 総括チーム参事）
「原子力被災 12 市町村の営農再開の現状について（仮）」

12:00-12:20 石川裕彦（京都大学防災研究所教授）
「福島県浜通り地域における里地里山資源の活用について（仮）」

12:20-12:40 杉野弘明（東京大学大学院農学生命科学研究科助教）
「飯館村の農業再生プロジェクトの現状について（仮）」

【休憩 12:40-12:50】

【コメント】

12:50-13:00 永井祐二（早稲田大学研究院准教授）

13:00-13:10 現在調整中

【パネルディスカッション・総合討論 13:10-13:55】

コーディネーター：大手信人（京都大学大学院情報学研究科教授）

【閉会】

13:55-14:00 松岡俊二（早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）